

第4節 地域との連携を図った指導事例

総合的な学習の時間「なでしこタイム」における環境教育の学習指導事例（第6学年）

1 単元名 荒川とともに地域の未来を見つめて

2 単元について

本校は、荒川の土手や河川敷と隣接し、自然に恵まれた学習環境である。子どもたちは、入学以来、生活科、理科、社会科、「なでしこタイム」などの様々な活動を通して土手と触れ合い、四季折々の変化を肌で感じて成長してきた。子どもたちにとっても、朝夕に土手をジョギングしたり散歩したりする地域の人たちにとっても、荒川土手とその周辺は、とても身近な存在となっている。

また、「クリーン大作戦」「環境集会」などの児童会活動を通して、児童は、荒川の環境と向き合い、自然との共存や自然環境の保全に高い関心を示してきている。

本活動「荒川とともに地域の未来を見つめて」は、第5学年での「荒川環境調査隊」の発展的活動である。前学年に引き続き、荒川や河川敷などの自然環境と繰り返しかわり、一人一人が抱いたこだわりを深めながら、環境地域へと目を向けて環境を見つめ、とらえ直していく。

本単元を通して、地域の人々とかかわり合いながらその未来について思いや願いをもち、荒川を含めた地域の環境をよりよくするために、地域の一員として積極的に働きかける態度を育てたい。

3 単元目標

地域にある荒川と触れ合う活動を通して、人々と荒川とのかかわりを知り、荒川を含めた地域の環境を見つめ直し、自分たちの未来に願いをもちながら、自分が地域の一員としてできることを考え、実践しようとする。

4 活動計画・評価計画（総数 90時間）

学習過程	みいだす	ゲストティーチャーとのかかわり・町会や青年会議所など地域の人々とのかかわり	荒川とともに地域の未来を見つめて	評 価
			課題を決めよう (30)	【関心・意欲・態度】 今までの活動を生かして意欲的に取り組もうとしている。 【情報を活用する力】 目的に応じた情報を収集し整理しながら、自分の活動に生かすことができる。 【課題を見いだす力】 体験活動を繰り返す中で情報を収集し、課題を決め、活動の見通しを立てることができる。
			調べよう (15)	【課題を解決する力】 課題にあった追究の方法を選び、ねばり強く課題解決ができる。
			学び合おう (7)	【自己を表現する力】 自分の思いがよく伝わる方法を考え、目的や意図をはっきりさせて、表現することができる。
			課題を深めて追究しよう (18)	【情報を活用する力】 多様な方法で得た情報を整理し、自分の課題を追究するために活用することができる。 【課題を解決する力】 課題にあった追究の方法を選び、ねばり強く課題解決ができる。
			成果をまとめて、学び合おう (12)	【自己を表現する力】 自分の思いがよく伝わる方法を考え、目的や意図をはっきりさせて、表現することができる。 効果的な発表の仕方を考え、自分なりの方法で表現しながら、追究してきたことをよりよく伝えることができる。
			地域に伝えていこう (6)	【自己を表現する力】 効果的な発表の仕方を考え、自分なりの方法で表現しながら、追究してきたことをよりよく伝えることができる。
し ら べ る	ひ ろ め る		活動を振り返り、新しい課題をもとう (2)	【自己の生き方】 地域とのかかわりの中で、自分が地域の一員としてできることを考え、実践することができる。
			自己の変容に気づき、次への課題へつなげる。	

5 児童とゲストティーチャー、児童と地域とのかかわり

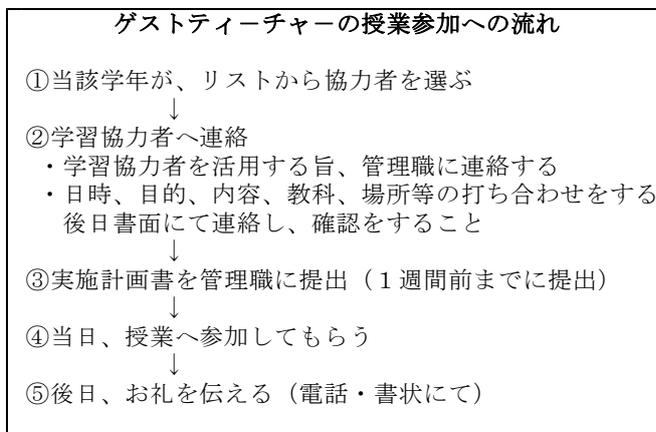
児童の多様な思いや願いを支援するために様々な方法が考えられる。例えば、専門的な知識や経験をもった方々に学校に来ていただいて授業に参加してもらう活動や、児童が地域に出て、実際に見たり聞いたりする活動などである。地域の方や保護者のよさを生かすことによって、より幅の広い活動が創造されることになる。



そこで、本校では、あらかじめ学習協力者（地域の方々、保護者）、地域教材を開発し、それらを記録・整理することで、児童や教師が必要な時に活用できるようにした。まず、地域の方や本校の保護者に協力者を募り、「学習協力者リスト 地域の方編」「学習協力者リスト 保護者編」を作成した。地域教材についても、生活科や「なでしこタイム」などにおいて活用させていただいた施設をコンピュータで管理する計画である。また、「地域情報ガイド児童編」と「地域情報ガイド教師編」も作成し、今までの活動の蓄積が今後の活動につながるようにしている。このような機会を数多くもつことによって、児童と地域と家庭との「かかわり」をより密接なものとし、児童の活動の幅を広げることになると考えている。

<学習協力者リストから選出したゲストティーチャーとの対応>

専門家などの学習協力者とのTTは、児童にとって意欲を高め活動を促進することになる。従って、事前の綿密な打ち合わせが必要である。ゲストティーチャーに児童の実態や授業の展開を知っていただき、適切な対応をお願いすることが児童のよりよい活動へとつながる。そこで、本校では、「ゲストティーチャーの授業参加への対応」と「ゲストティーチャー実施計画書」を作成し、活用方法について共通理解を図っている。



<児童一人一人の活動への支援>

生活科や「なでしこタイム」では、地域が活動の場となる。また、ゲストティーチャーにいろいろなことをお聞きする場合もある。これらの活動をスムーズに行えるように、手紙の書き方や電話のかけ方、ファックスの送り方等の情報を、児童がすぐ使えるような環境を整備しておく必要があると考えた。

そこで、本校では「なでしこタイム イエローページ」を作成した。このイエローページを3年生以上の各クラスに3部ずつ配付し、必要に応じて活用できるようにしている。

